

会議録	
会議の名称	平成２５年度第１回清須市行政改革推進委員会
開催日時	平成２５年５月２２日（水）午前１０時
開催場所	清須市役所本庁舎 ３階 大会議室
議題	１ 開会 ２ あいさつ ３ 議事 (1)平成２５年度行政評価の実施について ４ 閉会
会議資料	会議次第 配席図 委員名簿 資料１ 内部評価結果に対する外部からの意見聴取（外部評価）の導入について 資料２ 外部からの意見聴取（外部評価）における事業選定方法について 資料３ 清須市第１次総合計画〔改訂版〕登載事業等一覧 資料４ 平成２５年度清須市施策・事業評価シート
公開・非公開の別 （非公開の場合はその理由）	公開
傍聴人の数 （公開した場合）	０人
出席委員	近藤委員、佐野委員、高山委員、建部委員、堤委員、原田委員、福田委員、牧野委員、山田委員
欠席委員	小出委員、前田委員、山口委員
出席者（市）	柴田企画部長
事務局	（企画政策課） 葛谷企画部次長兼企画政策課長、加納副主幹、岡田係長、炭竈主査、小出主査
会議録署名委員	牧野委員、山田委員
１ 開会 ● 葛谷次長 ただ今から、平成２５年度第１回清須市行政改革推進委員会を開催します。 皆様には大変お忙しい中、ご出席をいただきましてまことにありがとうございます。私は、企画部次長の葛谷でございます。よろしくお願いいたします。 最初に、事務局から出欠状況のご報告をさせていただきます。 本日は、小出委員、前田委員、山口委員が、所用のためご欠席でございます。 それでは、会議次第に基づきまして、当委員会の福田会長から、ごあい	

さつをお願いいたします。

2 会長あいさつ

● 福田会長

会長の福田でございます。

平成25年度第1回の清須市行政改革推進委員会にお集まりをいただき、誠にありがとうございます。

さて、今回の議題は、平成25年度行政評価の実施についてということで、事務局から説明してもらいます。

事前に大まかな説明を受けておりますが、本日、改めて詳細な説明をしてもらい、皆様から忌憚の無いご意見を賜りたいと存じます。どうぞ、宜しくお願いいたします。

● 葛谷次長

ありがとうございました。

それでは、ここからの議事進行を福田会長にお願いいたします。

3 議事

● 福田会長

それでは、ここからは私が会議の取り回しをさせていただきます。宜しくお願いします。

初めに、会議録署名委員の指名をいたします。

本日の会議の会議録署名委員は、牧野委員と山田委員にお願いしたいと思います。

それでは、議事に入ります。

本日は、「議事（1）平成25年度行政評価の実施について」を議題としております。

事務局から説明をお願いします。

〔事務局から説明〕

資料1 内部評価結果に対する外部からの意見聴取（外部評価）の導入について

資料2 外部からの意見聴取（外部評価）における事業選定方法について

資料3 清須市第1次総合計画〔改訂版〕登載事業等一覧

資料4 平成25年度清須市施策・事業評価シート

● 福田会長

ありがとうございました。

ただ今、事務局から説明のありました議題につきまして、ご意見やご質問等がありましたらお願いします。

● 堤委員

資料2の平成25年度の欄、清須市第1次総合計画〔改訂版〕で、「重複しない場合は予算額の大きい順に」、とありますが、その予算額の大き

い順というのは、何をもって大きい順にしたのかお尋ねします。

●岡田係長

事業を選定していただくに当たりまして、委員の方それぞれの視点が違うというのは当然あることだと思います。その中で、私共が、例えば選定する際に、「この事業は基準値がどうだ」とか、「こういう内容でやっています」と内容を精査していかないといけなくなります。このための時間が掛かってしまうということもありまして、皆様に一番分かりやすいと言いますか、予算額の高い順で行っていく方法がご理解を得やすいのではと考えました。例えば、資料3で企画部の中の人事秘書課所管の事業を見ていただきますと、ある委員さんは広報紙の発行事業が知りたい、またある委員さんは、企画政策課の水辺の散策路事業を知りたいなど、それぞれの内容で、どちらの事業を優先にするのかということが、分かりづらいというのがあります。そうであれば、まず金額の大きい順で選んでいく方がご理解を得やすく、まずは試行的に行えればと考えたところであります。

●福田会長

大きければ良いというものでもないと思いますが、何も無いところで順番を決めようとする、やっぱり一般的には額が大きいものとなります。ご理解くださいますようお願いいたします。

●佐野委員

確認をさせていただきたいのですが、資料2の下段で、対象が262事業となっております。その前の行政評価のスケジュールを見ますと、評価シートの作成が6月でしたね。内部評価の実施とありますが、この内部評価の実施は262事業全部を評価されるのでしょうか。

●岡田係長

ただ今ご質問いただきました点につきまして、内部評価は1ヶ月のうちに全て終える予定で、各部局へ照会する予定でございます。

●佐野委員

金額などすべてが記入された262事業の評価シートを私たち行革委員にいただけるわけですね。その中で、7月になりましたら、外部からの意見聴取ということで6事業を決めていくという、こういうスケジュールでしょうか。

●岡田係長

はい、そのような予定にしております。

●佐野委員

もう1点、お伺いいたします。

事業・評価シートの中に、市民満足度調査結果を入れるというのは大変良いことだと思います。ただ、この市民満足度調査は、施策が37項目となっています。その37項目における市民満足度調査結果を、262事業に分けてここに全部入れるわけですか。

●岡田係長

資料2の裏面を見ていただきたいのですが、こちらに清須市第1次総合計画で記載しております37項目の施策が入っております。市民満足度調査というのは、この37項目を基に調査結果を出しており、この下に、262の施策・事業が含まれております。現状では262事業の1つずつの満足度・重要度は出していないため、現在お出しできるものとしてはこ

れが最新の内容という解釈であります。それぞれの事業がそれぞれのグループの中に入っている、施策の中に入っているというご理解をお願いしたいということです。

●佐野委員

7月にこの対象事業の選定をするに当たって、いつぐらいに手元に届くのでしょうか、頂いてから多少目を通す時間が無いと、7月に決めるというのも大変忙しいと思うのですが。

●岡田係長

予定でございますが、資料1の2枚目の4番をご覧ください。

行政評価スケジュールということで、6月に内部評価、事業評価シートの作成を各部局にお願ひし、内部評価を私共の方で行います。その後、7月に意見聴取の事業選定を行い、7月中には取りまとめを行って8月中旬までに事前配布できればと考えております。

●佐野委員

その時に、外部からの意見聴取対象を選定しなければいけませんね。ですので、6月に内部評価シートが作成された段階で、なるべく早い時期に意見聴取者の方にその資料を頂いて、目を通した上で6事業を決めないといけませんね。皆さんの意見を、なるべく早い段階で頂けるようお願いいたします。

●岡田係長

はい。内部評価を6月末までに終える予定ですので、それが終わりましたら、7月の早い段階でお配りいたしまして選定していただくように予定したいと思います。

●福田会長

かなりハードなスケジュールになっていくと思いますけど、事務局は行おうとしておりますので力になってあげたいと思います。

●牧野委員

前回の行革委員会で出された意見、上手く反映されていると思います。

特に、最初の内部評価結果に対する外部からの意見聴取（外部評価）をやろうとしていることを正確に表示されているのではないか、という気がします。本日はいくつか細かい点でお聞きしたいことがあります。まず実際の評価をする時に、或いは意見聴取する時の段取りについて、評価してコメント用紙を記載して提出し、意見等を取りまとめた調査表を公表するということですが、この取りまとめというのは誰が出されるわけですか。事務局で出されるのか、あるいは会長さんがなされるのか、誰が取りまとめるのでしょうか。と言うのは、例えば、教育委員会でも評価してまずよね。内部評価した内容を教育長から渡されて、去年は、私ももう一人の先生が去年、一昨年掛かって評価したわけです。それで、外部評価者の意見という形で意見書を提出しますよね。内部評価された内容に対して意見書を出します。その時に、全部こちらが出した意見を全部登載されるわけではなく、まず2人の意見が重複されてまとめて行うということは、当然いいわけです。しかし、そこから意見をピックアップする時、自分にとっては重要だと思った意見が搭載されていないということがあるわけですね。なので、どういう基準で、部長や教育長レベルの誰かのところでまとめられているのか分らないです。だから、我々の出した意見がどう取りま

とめられていたのかが、公表されるまで知らないわけです。自分の出した意見がどうなったのか、結果を見てあの意見は取り上げられなかったのかなあ、とそういうことになるわけです。事前に、「それは大事な意見だから掲載してください」とか、そういう調整などが全然ないわけです。ここは、どうなさるのか、事務局の方でまとめられるのでしょうか。

●加納副主幹

取りまとめというところでの作業的な内容でございます。

現時点で、当方が考えておりますのは、皆様方からそれぞれのご意見を書いていただいて、こちらの方で一旦集めさせていただきます。牧野様がおっしゃられたように重複するようなご意見につきましては、少しまとめた形をこちらで整理させていただきます。皆様方から頂いたご意見について、多少の要約等はあるかもしれませんが、基本的にそれぞれの事業に対してこういうご意見があったということで全てを出していきたいと考えております。その上で、こちらで要約したものが、公表に際して本来の意図したものと違うところが出てくるかもしれません。このスケジュールにもありますが、公表の前に行政改革委員会で一旦お示しをさせていただき、もし内容が違ふということであれば、ご意見等をいただいた上で、最終的な公表をしてまいりたいと考えております。

●牧野委員

ということは、相反する意見があったら、その場合は、併記するということになるのですね。

●加納副主幹

はい、その通りです。

それぞれのご意見は、皆様と同じ意見で統一するという考え、行政改革推進委員会として一つの意見としてまとめるということではございません。ですから、行革委員の方、それぞれの視点で、ご意見をいただいてそれを記載していくということです。こういう評価に対して、こういうご意見があるというように、全て出していきたいと考えております。

●牧野委員

もう1点お伺いしたいのですが、大学の外部評価などですと、評価結果が大学の死活問題になります。

大学として「不適格」や「適格認定を保留する」という結果が出ると、非常に大きな問題になるので、予めこちらで評価して、評価書を評価される方に送って事実誤認とか、言いたいことありますかという確認はするわけです。担当部局にこういう意見が出ているけれども、これについて事実誤認とか誤りを訂正するとか、そういう機会を設けるわけでしょうか、設けませんか。

●加納副主幹

今のところ、そのような生の声というのは、基本的には公表していきたいと考えております。しかしながら、今回実施してみても見直すべきところがあれば見直しをしていきたいなと考えております。現時点では、そのままの意見ということで、お出ししていきたいなと思っております。

●牧野委員

行政の他部局では、事前にある程度は直すというようなことですね。疑いがあると思ったら、事務局で調整してもらえればと思います。事実誤認

というのは、多分こういう外部評価ではあまり出てこないのではないかと思います。

分かりました。

●葛谷企画部次長兼企画政策課長

事前に調整という形ではないのですが、そういった恐れがあるというようなことがあれば、私共で調整させていただこうと思います。

●山田委員

牧野委員もお話されたように、最初に、この標題と進め方、或いは私共の立ち位置について十分整理していただいてありがとうございます。

何をすべきなのかは、はっきり分かりました。ただ、牧野先生が言われた事実誤認などの件もそうですが、今の立ち位置の話からすると、「事業評価シートの評価をしましょう」というところからまず始まっています。しかも、質疑応答するということで。ここで、事実誤認かどうか、ということをもまず整理しなくてははいけませんよね。

事業を行って内部で評価した人が、それをシートに載せる段階で自分達が考えたことと、違う書き方になってしまうこと自体がおかしいということの評価してくださいと、まず言っていたんですよ、確か。ですので、そこで事実誤認がある以上は、ここの評価の仕方が悪いのか、評価シートへの表現の仕方が悪いのか、というところについて、こちらが指摘しているということを表現しなくてははいけませんね、まず。それを調整して、無いものとしてしまったら、こちらが外部評価で内部に対する意見を言っているものが全部消されることになります。意味は分かりますよね。

まず、そういうことが無いように、この事業評価シートをきちんと作成しなさい、ということを私共が立ち位置で言っているということなのです。

事実誤認の話になってくると、内部評価対外部評価、並列した話での事実誤認、拡大的に話がいくような気がしましたので、自分が言ってみたのですが。私の理解としてはそういうことですが、皆さんいかかでしょうか。

●堤委員

大金を納めて1円でもサービスしていただきたいということは、これはつまるところだと思います。表現は違っていても、目的とするところは一緒なので、最終的には委員さんの評価が活きる、多少の相違があるにしても評価したものをまるっきり変えたら、評価した意味がなくなってしまう。表現が多少違うこともあるかと思いますが、どういう風に評価したのか、全体は変わらないということになります。

●加納副主幹

ただ今の堤委員や先程の山田委員もおっしゃっていたとおり、基本的に評価シートに対してご意見をいただくということです。

そこで、「これは違うのではないか」という事実確認も質疑応答の中であらうかと思います。もし、事実誤認があるということであれば、そういったご指摘をそのまま載せていきたいと考えております。

●牧野委員

評価する方も、事実誤認があったら委員の申し立てを認めるのか、という話ですけれども。

●加納副主幹

委員の皆様方が、コメントしていただく段階で事実誤認があるという部分は、どうしても必要であれば、こちらの方で調整はさせていただきたいと思います。

しかし、発言いただいた内容は、基本的に山田委員がおっしゃたように、例えば、委員の皆様が疑問に思っただけで事実誤認だったとして質疑応答をされる中で、「それは違います」という部分ですとか、こちらの受ける方から回答させていただいたやりとりについては、そのまま載せていきたいなと思っております。

●近藤委員

少しお聞きしたいのですが、事業評価シートの作成、内部評価を実施の後、262事業を全て私達が資料に目を通すということですよ。

この事業の中には、清須市独自の事業や、私がよく分からないのでちんぷんかんぷんなことを申し上げるかもしれませんが、国が通達してきたことによって行っている事業もあると思います。更に、国の通達した事業プラス清須市が独自にプラスアルファした事業があると思うんですけど、国の通達した事業に関しては、必要性・有効性・効率性は当たり前ですよ。問題なのは、進捗度だと思います。その進捗度を評価する項目が入っていないので、どうなのかなと思います。国が通達してきた事業についても評価すべきなのか、ついてはどの様に評価すべきか、清須市が独自に事業を評価する仕方と、国が通達してきた事業の評価の仕方が違ってくるのではないかと私は個人的に思います。それを事務局だけではなくて、こちらの委員さん方々にもご意見をお聞きしたいなと思ひまして、質問させていただきました。

●岡田係長

今のご指摘のお話は、私共としては、登載している事業内容の全部を把握したいということがございます。

各部局において、その事業の進捗状況ということも予算では把握しているのですが、実際どこまで何が進んでいるのかということは、各担当課で把握している状況です。私共も総合計画に登載している事業を進捗管理する立場であり、そういったものも把握したいというのが実情でございます。この施策・事業評価シートに進捗状況を含めて記載し、内部評価していくというものであります。

例えば、資料3の2枚目の建設部の土木課を見ていただくと分かりやすいかもしれませんが、土木課の2つ目の事業、新川流域総合治水対策事業といったものがございます。これは、広域的事業といいまして、国と愛知県、流域市町、こちらに本市が含まれているんですけど、この3者でどこまで状況として進んでいるのかといったことをまず事業評価シートで内部評価をするということになります。これを意見聴取というお立場でお願いする時には、進捗状況の把握が目的というところでございます。「国が主導してる」とか、「法律で決められているものに何を意見を述べるのか」というところでございますが、細かいご指摘とかいうことではなくて、進捗している状況で疑問に思われたことを率直に聞いていただければ良いのではないかと考えているところでございます。

●牧野委員

予防接種などについて1ヶ所にまとめてやるのか、4つの保健施設でやるのかでは事業経費の予算が違ってきますよね。だから、国がやりなさいと言っているからといって、「評価の対象にはならない」、「意見聴取の対象にならない」ということでもないと思います。国が定めてもやり方が全然こちらに自由裁量できない事業があるかも分からないですけども、大部分はやり方をもっと工夫できないかという事業になるかと思います。

●近藤委員

今の点は、牧野委員のおっしゃるとおりだと思います。

そうしますと、必要性・有効性の欄がやけに多くて、目標に対する進捗状況、一番大事なところですね。国が何パーセント以上、例えば、健康手帳交付事業だったら、交付率何パーセント以上引き上げなさいということがあるかと思います。そういった目標に対する進捗状況、課題等が小さい枠でしかないということで、一律にこの評価シートで良いのかなという疑問が湧いてきたもので、お聞きしたいのですが。

●岡田係長

今のご指摘のところでは、今回のシート作成の内部評価、意見聴取の方法というのは試行的に行っているものでございます。そういったご意見も率直に述べていただいて、私共が改善すべきところは改善していきたいと考えております。

●福田会長

近藤委員が満足のいく答えにはならなかったかもしれませんが、国と関連している事業が清須市も随分と多いですね。市が単独で進めているものでしたら理解しやすいと思うのですが、最近でも流域下水道事業もスタートしまして、基本的には県の事業ですが、物が出来上がると段々と市が中に組み込まれていくのかなと、自分は今その様な認識を持っております。

そうすると、やはり評価をしていく上で、国や県のことでぶつかってしまうような問題が出てくると、市では動きが取れなくなるのではないかとこのことを恐れております。ですから、今回の選定に当たって、近藤委員さんが指摘されたところは市が単独で行う事業だけでも多いですが、一方で、国や県から助成を受けて行う事業ではどうしても縛りを受けるという格好になってしまうという問題があるわけです。

それでも、それは、やりようによって効果をちゃんと上げていくことができるんだという理解で議論を進めていくなら、私はそれで良いのかなと思います。

●岡田係長

国や愛知県などが主体となっている事業も、清須市で行っていることは事実でございます。それは、そのまま進捗管理という形で行なっていきたいと思っております。最終的には、事業が終わり完成しますと、本市が主体として行っていくことになりますので、管理方法だとかそういったことも新しく課題が出てくるのではと考えております。

●福田会長

とりあえず、今の説明でもありましたが、明確な取り仕切りができない部分が結構多いと思っております。

ですから、これは、追々議論していく中で固めていけるものなら固めて

いけば良いと思います。とにかく、1部局1事業という方法で事業を採択していく上では、とりあえず議論されていくことができる形になっていくのかなという気はしております。時間の関係もありますので、議論を先に進めさせていただきます。

他には、ございますか。

●高山委員

今の近藤委員のお話にも関連するのですが、どれだけ行う義務があるのか、事業を選ぶ上でその点の情報が欲しいです。例えば、一覧を見ていますと、産業課の観光関係などは、観光協会との位置付けについて私は勉強不足でよく分かっていないですし、役割分担なんかもあるでしょう。そういったところを若干指導が欲しいなと思うことと、各種のお祭りの補助事業などは補助金がメインですかね。この内部評価シートの果たして指標とか、目標とか、どのような書かれ方をしてくるのだろうといったことなど、そんな疑問が湧いています。選択する時点で、このシート以外でも補助的な資料として、あまりたくさん用意されても目を通すのが大変ですので、適度なところで必要最小限で欲しいとは思っています。

●福田会長

事務局が答えて欲しいと思うのですが、やはり市がこれだけの事業を行っているという中で、その全てを短期間に我々が議論の中へ入っていくということは、そう簡単ではないとは思っております。

けれど、それだからと言って、避けるわけにはいかないものですから、とりあえず一応挙げられております資料を我々自身も勉強しながら進むという形にならざるを得ないと私自身は思っておるわけです。ですから、委員さん方から色々議論を頂戴する中である程度整理、絞っていく方法とせざるを得ないと思えてくるのです。

●岡田係長

今のご意見に対し、少しお話させていただきます。

会長も仰られましたが、このシート以外の補足資料となりますと、各事業それぞれに添付していかなくてはいけないということになります。それは、当然のことと思っております。私共もなるべくこの1枚で、分かりやすいように工夫していきたいと考えております。

例えば、シートが一番下に備考欄がございます。

こういったところに、この補足説明といいますか、そういったところを内部評価の段階で出来る限りのところを掲載させていただくように努力します。

また、それでも分からないという様なものがありましたら、改めて、後日全員の方に配布させていただくというような方法にさせていただきたいと思います。

●福田会長

とりあえず、そういうところで宜しくお願いいたします。

他に、如何でございますでしょうか。本当に、貴重なご意見を出していただきましてありがとうございます。

●山田委員

資料の記載のことでお聞きしたいことが1つあります。

資料の最後の方、スポーツ課のカルチャ新川とアルコ清洲ですが、それ

それぞれの管理事業として指定管理、それからもう1つ上の美術館管理事業で指定管理と3つだけ指定管理が登載してあります。

他にも指定管理ってありませんでしたか。

ここに、わざわざ「指定管理」と書くのは、特別何かあるのですかと思っただけですが。

●岡田係長

こちらに、総合計画の改訂版がございます。

こちらに記載してあるそのままを資料3としてお示しをしております。

指定管理につきましては、ご指摘のとおり、カルチバ新川、アルコ清洲、それから、はるひ美術館と市立図書館を含めた夢広場はるひ、もう一つが清洲総合福祉センターを清須市社会福祉協議会の指定管理で行っております。

●山田委員

私は、そこに関わっていて、指定管理だと知っていたので、それ以外にもあるのかなと思っていたものですから。

他は、無いということですか。

●岡田係長

あくまで、こちらにそのまま記載してあるだけでございます。

●山田委員

分かりました。

●福田会長

他に、何かございますでしょうか。

とにかく間口も広いですので、気付かれた点、思いつかれた点、何でも構いませんので、どんどん出していただいて、事務局に知恵を絞っていただくようにしていきたいと思います。

この段階では、とりあえず貴重な意見を委員さん方から一通り出させていただきました。今日は、一旦締めさせていただきたいと思いますが、事務局側から何かありますでしょうか。

●岡田係長

本日、皆様に議事としてお示しした内容で、今後のスケジュールであります6月からの内部評価、それから外部評価・意見聴取という形で進めさせていただきますので宜しいでしょうか。

●福田会長

皆様、宜しいでしょうか。

●佐野委員

この中で、たくさん抱えておられる課がありますよね。

内部評価シートというのは、全事業に対して毎年出されてきたものですか。今回初めてですか、それを各課にきちんと理解をしていただくだけでも大変なことではないかと思っております。

それを6月いっぱい全部それが出てきて、本当に大変だと思います。

企画政策課とか、そういうところは少ないですよ。本当に30事業以上、防災行政課にしても、健康推進課についても学校教育課でもそうですが、これを初めて評価シートを出されるわけですよ。

それだけでも大変な事業ではないかと思うのですが。

●牧野委員

内部評価シートは、２６２事業でこれまでも作っていたのですか。評価の視点や書き方が変わるということなので理解すれば良いですね。

●岡田係長

この事業評価シートというのは、前回の委員会でもご説明させていただいたのですが、全て作っていた訳ではありません。

基準予算額１，０００万円以上の事業で整理させていただき、昨年度の場合ですと５５事業です。

総合計画に登載してある施策・事業の全てを進捗管理するのが本来の姿ではあるかと考えております。今回は、２６２事業のシートを作成して何をやっているのか、把握したいと考えております。担当課には、非常に負担は大きいというところも承知しながら、だからといってやらない訳にはいかないものですから、ここは全て進捗管理をしていきたいと考えております。

他の自治体でもこういった意見聴取ですとか、内部評価といったことをほとんど行っております。多い自治体ですと、３７施策２６２事業以外の予算書に載っている事業全部、１，０００項目位を作業している自治体もあります。本市としましては、まず、この２６２事業の管理を行っていきたいと考えております。

●福田会長

そういうことですので、大変ではありますけれども、行わざるを得ないと思います。

それでは、今日も貴重なご意見を出していただきましたものですから、これも踏まえて事務局の方へこれをお返しし、再度、本日の整理をしていただこうかなと思っております。

皆様方、一度お開きにさせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

●葛谷企画部次長兼企画政策課長

本日は、ありがとうございました。

予定されておりました議事は、全て終了ということになりました。

先程担当から説明させていただいたスケジュールで評価、意見聴取を進めていきたいと考えております。

この後は、電話連絡、それから文書のやり取りで、委員の皆様方と連絡すると思います。宜しくお願ひしたいと思います。

何かと電話や、文書のやり取りで不届きな点があるかもしれませんが、ご了承くださいたいと思います。

それでは、委員会を終了させていただきたいと思います。

どうもありがとうございました。

４ 閉会

(時に午前１１時１４分 閉会)

問い合わせ先

企画部 企画政策課

０５２－４００－２９１１

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するためここに署名する。

会 長 福 田 清 彦

署名委員 牧 野 香 三

署名委員 山 田 康 博